

ギシギシの防除について

釧路管内でよく見られる牧草地の雑草の1つがギシギシです。ギシギシの防除が可能な雑草で、選択できる除草剤はアーシラン液剤（以下アーシラン）とハーモニーです。今回はそれぞれの除草剤の特徴と、使い分けについて説明します。アーシランとハーモニーの特徴を表1に示しました。どちらを使うかは、除草剤の特徴に基づき、ほ場の状況（新播かどうか）と散布時期があるかどうかと散布時期によって選択します。アーシランは春に散布できるのが特徴ですが、イネ科牧草の生育停滞が見られることがあります。特に夏の散布は避けましょう。ギシギシへの効果が大きい（枯死が早い）のはハーモニーですが、クローバへの薬害が著しいという特徴があります。

表1 ギシギシの除草剤の特徴

（参考：北海道農作物病害虫・雑草防除ガイド、2017）

	散布時期	牧草への影響	ギシギシの枯死時期
アーシラン液剤	春（経年草地） 秋（春新播草地、 経年草地）	イネ科の生育抑制 （春処理の場合）	秋散布の場合は 翌年春
ハーモニー75 DF 水和剤	夏、秋	クローバに著しい薬害 （特にアカクローバ）	散布当年

※アーシランは散布時期で、ハーモニーは新播か経年草地かで薬量が異なるのでご確認ください。



写真2

ハーモニー散布後の
シロクローバの黄化
（11月16日撮影）



写真1

ハーモニー散布後の
アカクローバの枯死
（11月16日撮影）

ハーモニーを散布するとアカクローバは枯死し、シロクローバは黄化して減少します（写真1、2）。

除草剤の使い分けとしては、春散布やクローバ混播草地にはアーシランを、夏散布や夏新播草地への秋散布にはハーモニーを使います。一方、チモシーの生育停滞を避けたい、またはギシギシを当年に防除したいという場合には、シロクローバ混播草地にはハーモニーを（なくならない）



写真4

ハーモニー散布翌年の
ほ場の様子
（5月31日撮影）



写真3

ハーモニー散布前の
ほ場の様子
（10月5日撮影）

標茶町のほ場でギシギシ対策として、10月中旬にハーモニーをチモシー・シロクローバ混播草地に散布した結果、ギシギシは一部残ったものの、大幅に減少しました。シロクローバへの薬害が懸念されましたが、翌年5月下旬にはシロクローバが残っている様子が確認できました（写真3、4）。

事例紹介

リスクを踏まえて）使う選択肢もあると考えられます。